

平成27年 4月13日

公益社団法人  
医療系大学間共用試験実施評価機構  
理事長 高久史磨

### 医学系共用試験OSCE課題漏洩について

現在、わが国の医学部・医科大学および歯学部・歯科大学の学生は、高学年になると、患者さんに、限られた範囲での医行為を行う「臨床実習」を行います。そのため、各学生は、「医行為をすることが許されるレベルの能力」が身についているかどうかをチェックする試験にパスしなければなりません。その試験が「共用試験」と称される全国規模の試験です。そして、この試験は、わが国のすべての医学部・医科大学と歯学部・歯科大学が所属している当機構が、試験問題の収集から試験実施、採点等を支援しています。

この「共用試験」は、2種類の試験からなり、一つは、コンピュータ画面に試験問題が次々に提示されるCBT(Computer Based Testing)といわれる試験で、6時間で320問の試験問題に取り組み、その回答状況から、十分な知識が修得できているかが判定されます。もう一つはOSCE (Objective Structured Clinical Examination ; 客観的臨床能力試験) という試験で、模擬患者さんへの面接や、各種のシミュレータを用いた試験で、学生ごとにいくつかの課題が与えられ、それに対して適切に対応できる態度や技能が備わっているかが判定されます。

さて、平成26年7月の新聞やテレビで報道されましたように、横浜市立大学医学部において、当機構が送付したOSCEの課題（試験問題）が、OSCE前夜、同大学の試験会場に入った学生により、掲示してあった課題が撮影され、電子媒体を介して受験予定者全員に送られるという事態が発生しました。

その後、同大学では独自に作成した課題でOSCEを実施し、合格した学生は臨床実習を開始し、漏洩に関与した学生については留年等の処分をしたという報告がありました。

これは、ひとつの医師養成大学における、まことに不届きな事案ではありますが、全国の「共用試験」の実施母体である当機構としても、わが国の医師・歯科医師養成に携わる全大学の信頼を揺るがせかねないことと重く受け止め、当機構内に調査委員会を立ち上げ、本事案の問題点を整理し、検討を重ねてまいりました。そして、再発防止のために、各大学に向けて発信する「OSCE実施要綱」の改訂を提言し、当機構組織の見直しと再編を促すと同時に、当該大学へは再発防止のための勧告を發しました。

当機構としましては、今後も、国民の皆様から信頼される医師・歯科医師の養成に携わる組織の一員として、「共用試験」の公正な実施を続けるべく邁進いたす所存でありますゆえ、なお一層のご支援、ご協力を賜りますようお願いいたします。